

会員協働による木曽国際射撃場ヒノキ間伐材安全柵設置事業

取組に至る背景・事業の目的

- 本会が上松町に設置し、会員相互で維持管理している木曽国際射撃場には、トラップ・スキート・ラビット・ライフル・エアーライフルの5射面があり、銃の種類や、様々な野生鳥獣の捕獲に対応できる施設となっている。
- 近年、野生鳥獣による田畑や森林への被害が一層深刻になっているなか、加害鳥獣の捕獲をより効果的かつ安全に行うよう、本会会員の射撃技術の向上が強く求められており、あわせて射撃場の役割も大きくなっている。
- このため、安全柵を会員協働により設置し、射撃場内の安全性を向上させ、会員の射撃技術の向上による野生鳥獣の効果的な捕獲を推進することで、住民の地域生活の安全に資することを目的に事業を実施した。
- なお、安全柵の材料として木曽地域のヒノキ間伐材を使用することにより、森林資源の活用を図ることも目的としている。

事業内容

- 安全柵の材料は、木曽地域内で森林の機能向上のため実施された間伐林を搬出し、地域内で一部加工を行ったヒノキ材を購入し、会員の協働作業により上松町の射撃場内に設置した。
 - ・作業実施日 : 平成29年10月21日(土)
 - ・作業参加数 : 18名
 - ・設置延長 : 223.6m
- 間伐材を用いたことをホームページに掲載するとともに、間伐材を用いている旨を表示した看板を設置した。



【会員による設置作業】

事業効果

- 会員のチームワークにより効率的に安全な柵ができ、射撃場内の安全性が向上するとともに、チームワークが醸成された。
- ヒノキ間伐材等を2.0 m³使用することにより、地球温暖化対策として0.4tの炭素固定が図られた。
- 木曽産のヒノキの間伐材を使用した取組みを発信することにより、地域木材の普及に向けたPRをすることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 主に建築業の会員を中心に参加を頂いたことにより、スムーズに設置することができた。
- 高齢化に伴い射撃人口も減少していく中、安全できれいな射撃場にしていくことで、若い会員の増加を目指したい。
- 今後においても、野生鳥獣の個体数管理を効率的かつ確実に遂行し、木曽地域における安全な生活環境の確保と農林業被害の低減を図るため、射撃技術の向上や安全性の確保、会員相互の連携強化を目的として各種講習会や、射撃場施設の機能向上のための活動を行いたい。

【選定のポイント】

会員協働による作業を行ったことで、射撃場に対する会員の維持管理意識の高揚が図られたとともに、会員相互の連携強化や射撃技術の向上により、野生鳥獣による農林業被害の低減など地域への貢献が期待される。

団体名	木曽猟友会(上松町)	事業タイプ	ハード事業
連絡先	0264-24-2211(内線2445)	事業費	1,708,500円
		支援金額	1,281,000円